宮脇地区公民館（南九州市）

みんなで「いっしょき」つながり重視の地域創造

高齢化率
38.0%
1,827人
地域の人口
令和４年３月時点

地区所有のキッチンカー

地区概要

宮脇地区は、行政機関や金融機関などがある旧頴娃町の中心地と農家が点在する山間部の、計 10 自治会から構成される。

コミプラ設立の経緯

南九州市のモデル地区として、平成 30 年度に選定された。事前準備として、今後活動の中心となっていく 10 名でファシリテーションについて学ぶ養成講座を実施。そのメンバーが中心となり、ワークショップ形式の「宮脇かたろかい」を 12 回開催し、地区の課題やこれからやりたいこと・できることなどの意見を出し合い、住民の意識共有を行った。

令和元年度に、活動の実働部隊として「NPO 法人いっしょき宮脇」を設立。同 NPO 法人が中心となって「みやわき 10 年戦略ビジョン」に基づき活動を展開している。

特徴的な活動

①NPO 法人いっしょき宮脇を中心とした活動

令和２年度には NPO 法人メンバーが中心となり空き店舗を改修し、交流拠点「みやまる商店」を整備した。現在は、NPO 法人メンバー等によるお茶、和菓子、コーヒーの提供やイベントを開催するなど、地域の交流拠点施設となっている。

交流拠点施設「みやまる商店」

いっしょき宮脇開催のイベントの様子

その他、総務省の補助を受けて購入したキッチンカーを利用した事業や、インスタグラム・Facebook を活用して、「みやまる商店」や地域の人が先生となる「まちの楽校」に関する情報、その他地域イベントの様子を「いっしょき瓦版」により広く発信するなどの幅広い取り組みを行っている。

②地域全部で盛り上がる 11 月灯

11 月灯での花火

宮脇地区では令和２年から、自治会、老人クラブ、女性部、青年団、小学校、営農組合などの団体が協力して地域イベント「11 月灯」を開催しており、宅配形式の飲食店応援企画（みやわき Eats）や、キッチンカーを活用した地元産品を使った飲食の提供、地域の特産品を販売する軽トラ市などを行っている。

100 名以上の様々な年代の参加者がタスキをつないで 12 時間走り続ける「リレーマラソン」はイベントの目玉となっており、ゴールの際には「みやわき花火」を打ち上げている。地域全体で作り上げ、多くの住民同士が関わることができる機会になっているこのイベントは、１年で最も宮脇地区が盛り上がる事業になっている。

今後の展望（コミプラの声）

宮脇地区は独居高齢者が多いため、地域高齢者が元気かどうか把握するために隣近所で声が掛け合える環境を作ることが重要である。その環境を作るために、会員の確保、更には地域内で世代をまたいだ３世帯のグループを作り、声をかけあうことができる「３人組制度」と呼ぶ共助のシステムを構築していきたいと考えている。

また、みやまる商店のように地域の新たな拠点を作ることはメリットがある反面、維持費の負担が大きいことが課題となっている。財源確保のためにも、みやまる商店やキッチンカーのより有効な活用法を模索していきたい。

南九州市から一言

宮脇地区は南九州市の中でも先進的な取り組みを行っている地域です。市では全ての地区のコミプラ設立を目標としているので、宮脇地区の事例や失敗談などを参考としながらより良いまちづくりを進めていきたいと考えています。

利用した補助金など

- 過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業（総務省）（R2 年度）
- コミュニティ・プラットフォーム形成促進事業（県）（R 元･2 年度）
- ウィズコロナ協働活動促進事業（県）（R2 年度）
- 南九州市まちづくり事業（市）（R 元年度～）

特定非営利活動法人
いっしょき宮脇
Facebook

Passion

**住民の声をよく聴いて
事業に反映させるべし！**

community platform report

松原なぎさ校区コミュニティ協議会（姶良市）

住民が主役の“つなぐ”まちづくり

高齢化率
22.9％
8,547人
地域の人口
令和４年３月時点

十五夜での綱引き

地区概要

JR 日豊本線帖佐駅の南側に位置し、利便性の高い地区。子育て世帯が多く住み、人口は増加傾向にある。平成 27 年には松原なぎさ小学校が開校。自治会加入率が 68%。

コミプラ設立の経緯

平成 26 年に設立準備委員会を立ち上げ、住民説明などを行い、平成 27 年に「松原なぎさ校区コミュニティ協議会」を設立した。４つの自治会、小中学校、企業、NPO 法人、福祉施設等で連携して活動を行っている。

特徴的な活動

①気軽に集える場所づくり

高齢者をはじめとする地域住民が気軽に集える場所「ひまわりハウス」を、空き家や自治公民館を活用して、地区内５か所においてNPO法人と連携して運営している。ひまわりハウスでは､歌や踊り、手工芸などのサークル活動をはじめとし、認知症予防講座やパソコン教室などの生活に役立つ活動まで幅広く行われている。

また、子どもたちの学習支援を行う「なぎさ未来塾」や子ども食堂「わぃわぃ食堂」といった、子どもたちの居場所づくりにも取り組んでいる。地域住民が学習支援や食事作りなどを行うため、子どもの貧困や孤独に対する取組となるだけでなく、世代間を超えた幅広い交流の場となっている。

ひまわりハウスでの「わぃわぃ食堂」

②認知症見守り訓練

認知症についての講話のほか、実際に道に迷っている高齢者を想定した実地訓練を行っている。

この訓練は認知症サポーター養成講座を兼ねており、地域住民をサポーターとして育てることで、地域全体で認知症高齢者やその家族を支える体制づくりを図っている。また、このような活動を通して、住民の高齢者に対する理解を深め、高齢者が認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活できるようなまちを目指している。

認知症模擬訓練写真

認知症を想定した寸劇

今後の展望（コミプラの声）

松原なぎさ地区は姶良市内で最も高齢化率が低く、人口も増加傾向にある。しかし、子育て世代の参加が乏しいため、今後このような人々や現役世代を巻き込んだ活動を進めていくことが重要であると考えている。

姶良市から一言

松原なぎさ校区コミュニティ協議会の活動は、まさに「安心して子育てが出来る」「高齢者が住み慣れたまちで安心して暮らせる」「子どもがふるさととして誇りに思える」まちづくりを支えるものであると感じています。「人の和で　明るく住みよい　伸び行く　“なぎさ”」というスローガンを掲げ、各専門部を中心に幅広い活動を行っており、大変期待しています。行政も引き続きコミュニティ協議会と連携しながら、住民が安心して暮らせるまちづくりを行っていきたいと考えています。

利用した補助金など

- 姶良市校区コミュニティ運営補助金（市）（H27 年度～）
- 姶良市校区まちづくり事業補助金（市）（H30 年度～ R2 年度）
- 姶良市企画提案型校区活性化事業補助金（市）（R3 年度～）
- 子どもゆめ基金助成金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）（R 元年度～）

姶良市 / 松原なぎさ校区コミュニティ協議会

PASSION

地域の大人を巻き込むべし！

community platform report

大野づくり計画策定・推進委員会（垂水市）

うのばいブランドがつなぐ人と地域

うのばい＝大野原

高齢化率
61.7％
81 人
地域の人口
令和４年２月時点

いきいき祭り

地区概要

標高 550ｍに位置し、桜島の大正噴火や昭和噴火、戦後の入植者により開拓された３つの集落から構成される。農林業に従事する住民が多く、地区内に鹿児島大学演習林がある。

コミプラ設立の経緯

垂水市のモデル地区として選定され、平成 22 年度に 10 年後の大野の「一番のねがい」「ありたい姿」の実現に向けた取組をまとめた「大野づくり計画」を策定し、中間期の平成 26 年度に「大野づくり計画　見直し版」を策定した。計画期間終了に伴い、令和２年度には「第２期大野づくり計画」を策定。計画策定にあたっては、地区住民で協議を重ね、意見を集約した。

鹿児島大学の学生サークルから発展した「NPO 法人森人くらぶ」や鹿児島大学演習林、旧大野小中学校を活用し、垂水市・鹿児島大学・大野地区の三者の協力で運営される社会教育施設「大野 ESD 自然学校」などと連携し、様々な活動を実施している。

特徴的な活動

①地域外の人を巻き込む力

大野地区はそこに住む人は少ないが、鹿児島大学の演習林があることや、多くの従業員が勤務する企業が立地していることから、関係人口は多い。そういった団体と連携することにより地区外の人たちを巻き込み、地区の活力を生み出そうとしている。また、地区住民だけでは伝承が難しい伝統芸能「大野棒踊り」も、地区外の大学生や地区出身者の参画により伝承・振興を図っている。

鹿児島大学演習林での植樹

大野棒踊り

②地元産品を使った地域活性化

地元の特産品であるつらさげ芋の増産に対応するために、地区共用の芋干場や貯蔵庫を整備した。維持費は利用者から徴収する管理費で賄っている。

芋干場

いきいき祭りでの特産品販売

また、つらさげ芋をはじめとする地区の特産品を、「うのばいブランド」として確立させるため、道の駅等で販売する際に、商標登録した地区のロゴマークを貼り、アピール強化を図っている。

生産から販売までの体制整備、口コミによる消費者増加等により、ブランド力を高めた結果、安定した収益を得られるようになった。

平成 22 年度から開催している「大野原いきいき祭り」では、つらさげ芋の販売を目玉とし、その他にも地区の農産物や６次産業化商品等の「うのばいブランド」を販売。毎年、地区内外から約 1,500 人が訪れる。

今後の展望（コミプラの声）

うのばいブランドの販路拡大に適した新商品開発や直売所の設置、地区内外の人材による活動体制の構築、空き家調査による移住者向け物件の掘り起こしなど、様々な活動に取り組むことで、大野に来る人・住む人を増やし続けていきたい。

垂水市から一言

大野地区は、垂水市の地域振興における先進地区になっています。リーダー的存在を中心に、地区内外の方々が活発に活動しています。地域振興計画に基づく地区のやりたいことが明確になっているため、行政も地域振興に関わりやすくなっていると感じています。

利用した補助金など

- 過疎集落等自立再生緊急対策事業（総務省）（H25 年度）
- 過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業（総務省）（H27 年度）
- 市町村協働の仕組みづくり促進事業（鹿児島県）（H24 年度）
- 垂水市まちづくり交付金（市）（H23 年度～）

大野づくり計画

大野 ESD 自然学校
大野地区

PASSION
やりたいことを共有すべし！

community platform report

高隈地区コミュニティ協議会（鹿屋市）

高隈の恵みを活かし人々が集う郷づくり

高齢化率
49.1％
1,416人
地域の人口
令和４年３月時点

上別府の棚田

地区概要

高隈地区は、高隈山と笠野原台地に囲まれた中山間地で、地区内には、国営第一号の畑地かんがい事業で造られた高隈ダムによる人造湖「大隅湖」や、その湖畔に県の国際交流施設「アジア・太平洋農村研修センター」がある。

コミプラ設立の経緯、拠点整備

平成 19 年に４つの町内会が合併して誕生した大黒町内会と、平成 24 年に７つの町内会が合併して誕生した高隈町内会が、平成 25 年に鹿屋市のモデル事業として、地区内の各種団体と保育園・小中学校等と連携して準備委員会を設立。先進地視察や住民アンケート等を行い住民の意見を集約したうえで、平成 27 年に高隈地区コミュニティ協議会を設立した。

米の保管庫として使われていた石蔵を改修し、活動の拠点として整備。また、農協事務所跡を「たかくまふれあい館」として改修し、高齢者のサロン活動や、移住体験宿泊ができる環境を整えている。その他、自主財源確保のための事業として、地区内にある火葬場の管理運営業務を指定管理者として受託している。

特徴的な活動

①ドライブサロン事業で高齢者の買い物支援

地区内の社会福祉法人や社会福祉協議会と連携し、週に１度地区外の商業施設へ送迎を行う「ドライブサロン」事業を行っている。交通手段の無い高齢者等の買い物支援と併せて健康状況の確認や安否確認、生きがいづくりを目的とした生活支援サービスで、地域全体で高齢者を支える仕組みづくりを行っている。

ドライブサロンの様子

②山菜弁当がつなぐ地域の輪

高隈の地元で採ったセリやクレソン、ゼンマイを使った健康でヘルシーなお弁当。もともとは閉校した高隈高校で作られていたもので、復刻にあたっては、当時の高校の先生に協力をもらい、味を再現している。平成 25 年からツアー観光客等に販売しており、地域の貴重な収入源となっていることに加え、レシピの考案から食材調達、製造まですべての工程を地域の人で行うことにより、作ること自体が地域住民の交流のツールとなっている。

山菜弁当

ツアー客への対応

今後の展望（コミプラの声）

活動を継続的に行うためにも自主財源の確保を目的とした事業内容を考える必要がある。また、宿泊体験施設を整備し、人口減少を防ぐための定住促進を進めることや、益々進む高齢化に対応できるように有償ボランティアの検討を行いたい。そして、地域の観光資源を活かしてその魅力を伝え、関係人口の増加を図るとともに、地域を継続して盛り上げるためのリーダー育成にも力を入れていきたい。

鹿屋市から一言

高隈地区コミュニティ協議会は設立以来、地域住民や関係団体等が一体となって地域活性化に向けた取組を積極的に行っています。令和３年度は、鹿児島女子短期大学と連携協定を結び、「おむすびコンテスト」を開催し、高隈米を広くＰＲするなど、非常に地域のやる気を感じています。また、自然溢れる高隈地区は子どもがのびのび育つ環境であるため、空き家を活用した定住促進を進めていきたいと考えています。財源確保や観光振興等の目標を掲げて様々な事業に取り組んでいる高隈地区をこれからも一緒に盛り上げていきたいと考えています。

利用した補助金など

- 過疎地域集落ネットワーク圏形成支援事業（総務省）（H29 年度）
- 地域貢献活動サポート事業（県）（R 元年度）
- 地域コミュニティ協議会交付金（市）（H27 年度～）

わたしたちと高隈
高隈地区コミュニティ協議会

PASSION

地域の恵みを活かすべし！

community platform report

取材を終えて…

コミュニティのイメージとして人口が少ないところばかり想像していたが、人口が大きいコミュニティも存在していることを知った。また、人口が多いならではの課題も存在することを学んだ。また、会長の強いリーダーシップの下で多岐に及ぶ活動が行われていることが分かった。

ドライブサロンで高齢者の生活支援をしていることから、少子高齢化を嘆くのではなく、時代に合った活動をされていると感じて印象に残っている。また、短期大学と協定を結んでいることから、若い世代との関わりも積極的に創られていて、地域を盛り上げたいという強い気持ちが伝わった。

コミュニティ協議会の活動は、地域住民が主体であることを最も大事にしていると感じた。また、子どもから高齢者まであらゆる世代をつなぐことで、いざという時に頼れる住民ネットワークが形成されていると思った。

地区の人口が少ないため、様々な場面において他地域に住む人々との協力が必要になるが、その協力を得ることによって他地域を巻き込んだ活動が盛んになっていた。また、自分の地域の魅力をしっかりと外に発信しており、地域の魅力ある資源をしっかりと活かした取り組みが行われていると感じた。

取材で印象に残っているのは、「地域でお金を稼ぐ」「若者や女性を巻き込む」という言葉だ。コミプラは地域内の取組にとどまらないものだという、新たな知見を得ることができた。

取材を進める中で、コミプラ活動を行う初期から「かたろかい」と呼ばれる住民同士での話し合いの場を重視しており、現在でも地域の声を大切にしながら事業を進めているということが印象に残った。その時間が根底にあるからこそ、多くの住民や団体が交流し合える事業を行うことができ、地域が明るくなっているのだと感じた。これからも課題を改善し、よりよい地域を目指していくということなので注目していきたい。

農業が盛んという地区の特性から、課題や活かす点を見つけて活動が行われていると感じた。また、財源の確保はコミプラ事業の重要な課題だと感じた。

令和３年度　鹿児島大学法文学部法経社会学科地域社会コース
片野田ゼミ（自治体政策論）

徳重 海成（３年）
羽田野 芙由（３年）
大窪 麗奈（３年）
柏木 飛香（３年）
堀之内 咲花（３年）
花月 奈々子（３年）
前田 幸奈（３年）
上馬場 優希（３年）
新留 千尋（２年）
矢動丸 幸太（２年）
草野 志歩（２年）
竹原 航太郎（２年）
折田 陽香（２年）

片野田 拓洋（教員）

community platform report